

研修名 マネジメント「幼児教育・保育」

令和元年6月24日（月）13：30～16：00

講演 ワークショップ 「小学校との接続」

「アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの理解」

「保育所児童保育要録・園児指導要録について」

講師 鳴門教育大学 木下 光二 氏

1 講演要旨

- ・改訂の趣旨を踏まえたこれからの幼児教育

幼児教育は環境は大切・・・自主的に遊びを作り出す環境を整えていく

保育士がモデルを示す、見本を見せることは良い

- ・小学校教育との円滑な接続

連携—人と人との交流

接続—カリキュラムとつなげること

「連携」と「接続」は違う

日本の小学校は幼児教育と接続しなければならない

- ・幼児教育後半・・・アプローチカリキュラム→早期教育にならないこと、遊び中心
- ・小学校に行ったら・・・スタートカリキュラム

- ・幼児教育から児童期につながってほしいものは？

・自信、自己肯定感

・意欲、主体性

1 番大事なこと

幼児期に夢中になって遊び込んでいるか→小学校に行った時、学び込める自分で遊べる環境を作ることが大事 遊んでもらわなければ遊べない子は× 環境構成を見直すこと

- ・保育記録と指導要録

記入の要点

- ・育みたい3つの資質能力と10の姿と取り入れて書く
- ・日々の保育記録を生かして書く
- ・プラスの視点で書く
- ・育ちと多面的に書く

ねらいや内容はどこでもある 子どもの姿が大切 その子がどんなことを考えて、どんなことをしているのかを書くこと

2、感想

研修のタイトルを見て、難しい内容の研修なのではないかと思っていたが、日々の保育の大切さについての話がたくさんあった。子どもが選んで遊び出せる環境であるか、自主性を摘み取っているのではないかと自分自身の保育を振り返るきっかけになり、環境構成の大切さについて改めて考えさせられた。また、『3歳児の保育』のDVDでは、日々の保育の様子を観させてもらったが、子どもが工夫したり、考えて遊びを進めたりする中でポイントを押さえた保育士の言葉掛けや援助の仕方が参考になり、遊びは子どもと保育士と一緒に作り出すもの、一緒に遊ぶ中で子どもが遊びの面白さに気づき“次はこうしてみよう”“もっと遊びたい”という気持ちになるよう導いていかなければいけないのだと感じた。また、満足感や達成感、褒められた経験が次につながるのだと学んだ。記録の書き方では、プラスの視点で書くことの難しさを感じている。どうしてもできないことに目が向いてしまい否定的な書き方になってしまいがちである。毎日の日誌や個人記録を書く時に意識していこうと思う。沢山の学びがあり、日々に生かせるようにしていこうと思いました。

(記録 くすのき保育園 榊原昌代)